



AWS サービスデリバリープログラム AWS Database Migration Service (DMS) コンサルティングパートナー検証チェックリスト

一、サービスデリバリープログラムの検証チェックリスト

2018 年 5 月
バージョン 1.0

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

目次

はじめに.....	3
関係者に求められること.....	3
プログラムへの参加と利点.....	4
検証のプロセスとタイミング.....	4
合併、買収、および売却活動の影響.....	4
定義.....	5
AWS サービスデリバリープログラムの前提条件.....	7
AWS サービスデリバリープログラムの要件.....	8

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

はじめに

AWS サービスデリバリープログラムの目的は、AWS の特定のサービスをお客様に提供して成功に導いた実績と専門知識を持つ APN パートナーを認定することです。AWS サービスデリバリーの検証チェックリストは、AWS サービスデリバリーの申し込みに関心をお持ちの APN パートナーに準備をしていただくためのものです。このチェックリストは、AWS サービスデリバリープログラムの認定を受けるために必要な基準を示しています。

関係者に求められること

AWS サービスデリバリーの認定を申し込んだ APN パートナーには、AWS サービスデリバリー認定を申し込んだ時点とその後 12 か月ごとに、技術検証と呼ばれる能力の検証を受けていただきます。AWS は社内の専門知識を活用しますが、レビューを促進するためにサードパーティー企業を活用することもあります。

AWS はいかなるときでも本書を変更する権利を有しています。APN パートナーは前提条件を満たしている場合でも、AWS サービスデリバリー申込書を提出する前に、本書を詳細に見直してください。本書の項目に不明瞭な点があり、さらに説明が必要な場合は、APN パートナー担当者（パートナー開発担当者（PDR）、パートナー開発マネージャー（PDM）など）にお問い合わせください。さらに支援が必要な場合は、APN パートナー担当者がプログラム担当者と連絡を取ります。

検証プロセスを開始するには、以下に概説するステップに従ってください。

- ステップ #1: パートナー検証チェックリストを確認し、すべての要件を満たしていることを確認します
- ステップ #2: この記入済みの検証チェックリスト（自己評価を含む）を aws-service-delivery@amazon.com に送信します
- ステップ #3: APN パートナーセントラルから AWS サービスデリバリー申込書を提出します
 - [APN パートナーセントラル](https://partnercentral.awspartner.com/) (<https://partnercentral.awspartner.com/>) にログインします
 - 左側のナビゲーションから [View My APN Account] をクリックします
 - このページで、最初に次のものを送信します。
 - AWS のサービスの具体的な[お客様導入事例](#) (2) ([アーキテクチャ図](#)を添付)
 - AWS のサービスの具体的な[コンサルティングのプラクティス](#)
 - 次に、[AWS Service Deliveries] までスクロールし、申し込みたい AWS のサービスを選択します
 - サービスデリバリー申込書に記入します

不完全な申込書は認められず、要件すべてが満たされるまで拒否されます。

APN パートナーセントラルから申込書が提出されると、記入漏れのないことと前提条件の順守を APN チームが確認します。次に、社内またはサードパーティーのエキスパートに申込書を送信して、技術検証を完了します。

検証プロセスの際には、1) コンプライアンスのエビデンスを提出でき、2) AWS のサービスに関する技術要件を口頭で詳しく説明できる方を、APN パートナーが手配しておくことが推奨されます。

技術検証が完了すると、APN パートナーは、提出された申込書の最終ステータス（APN パートナーのサービスデリバリー認定の可否のいずれか）を受領します。複数の AWS サービスデリバリー認定を取得することも可能です。1 つの認定を取得しても、他のサービスデリバリー認定の承認は保証されません。

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

プログラムへの参加と利点

AWS サービスデリバリープログラムの資格を取得した APN パートナーは、APN メンバーとして得られる利点に加え、以下のような多くの価値のある利点を得られます。

- 顧客案件の共有
- マーケットデベロップメントファンドの優先的な利用
- AWS 上層部のコメントの引用を含んだプレスリリース
- AWS パートナーネットワークリファレンスチームの優先的な利用
- APN ブログでの AWS サービスデリバリースポットライトゲストシリーズ
- AWS のウェブサイトにも専用のページを掲載
- 取得した AWS サービスデリバリー認定についての AWS 製品ページ
- [AWS パートナーソリューションファインダー](#)への登録と優先的取扱
- APN パートナースポットライト
- 内部の AWS Sales Enablement への参加
- AWS ニュースレターで推奨パートナーとして掲載
- AWS のサービストレーニングの優先的な利用
- NDA ロードマップとオンラインセミナーの優先的な利用

検証のプロセスとタイミング

APN パートナーは、監査の実施後（2 営業日以内）に、監査員またはプログラムオフィスから、強み、改善の機会、およびアクションアイテムを記述した概要を受け取ります。APN パートナーは、監査概要の受領後 5 営業日以内に、指摘のあったアクションアイテムに対処してください。

アクションアイテムは、AWS サービスデリバリープログラムへの参加承認の前に処置を完了する必要があります。APN パートナーが 5 営業日以内にアクションアイテムへの対応を完了できない場合は、完了に向けた方策と期限を詳細に記載したアクションプランを AWS サービスデリバリープログラムマネージャーに提出する必要があります。

監査員は、監査後 5 営業日経過後、10 営業日以内に、AWS に最終報告書を提出します。

AWS サービスデリバリーパートナープログラムへの合否の最終判定は、AWS が最終監査報告書を受領した後、受領から 20 営業日以内に実施されます。

合併、買収、および売却活動の影響

AWS サービスデリバリープログラムは、監査を実施することにより、APN パートナーの技術的能力とそのビジネスモデルおよびデリバリーモデルを検証します。ビジネスモデルおよびデリバリーモデルは、多くの場合、合併、買収、および売却の過程で大きな影響を受けます。そのため APN パートナーは、合併吸収によって生じる事業に応じて、再度の監査申し込みと受検が必要になることがあります。以下のガイドラインを参照してください。

買収/合併

本書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

サービスデリバリーパートナーが非サービスデリバリーパートナーを買収する場合、即時の対応は不要です。サービスデリバリーパートナーは、買収後の監査の際に、その AWS サービスデリバリーのプラクティスへの影響を説明する必要があります。

非サービスデリバリーパートナーがサービスデリバリーパートナーを買収する場合、APN パートナーを買収して AWS サービスデリバリーパートナーとして認定を取得するためには、新たな申し込みと監査が必要です。監査の過程で、新しいビジネスモデル、デリバリーモデル、および買収した技術的能力の統合を検証する必要があります。AWS サービスデリバリープログラムの認定を確実に維持するには、監査をできる限り早く受検することをお勧めします。

サービスデリバリーパートナーが別のサービスデリバリーパートナーを買収する場合、即時の対応は不要です。合併した事業体は、元の事業体のいずれかに対する更新監査の際（いずれかの最も早い日付）に評価されます。

売却

サービスデリバリーパートナーがその AWS サービスデリバリーのプラクティスに関連する事業の一部を売却した場合、売却する事業については、サービスデリバリーパートナーとしての地位に大きく影響する AWS サービスデリバリーのプラクティスへの重大な影響を、すぐに明らかにしてください。APN パートナーは、影響の大きさに応じて、プログラムから除外されるか、次回の更新監査の際に事業への影響を明らかにするよう要求されます。売却された事業については、新しい APN パートナーとしてサービスデリバリープログラムに申し込む必要があります。

定義

AWS のサービスのコンサルティングのプラクティス

AWS サービスデリバリー認定は、AWS の特定のサービスのオーケストレーションおよびデプロイを顧客に対して実行してそのニーズを解決する APN パートナーに付与されます。

AWS 導入事例

すべての APN パートナーは、実施した AWS のサービスのデプロイを詳しく記述した AWS 導入事例を提供する必要があります。AWS 導入事例は、個々の顧客のソリューションと成果を含む、完了済みの顧客プロジェクトについての書面による説明です。導入事例には、顧客の紹介、課題の概要、APN パートナーがどのようにして AWS のサービスを構築およびデプロイしたかについての詳細、付加的に活用したサードパーティー製ツール、納入日、および顧客が実現した成果を含めてください。

AWS 導入事例は、**公開**（一般の閲覧者と共有可能）または**非公開**（監査目的またはパートナーがプログラム要件を満たしていることを AWS に証明することを目的として、AWS とその第三者監査員のみと共有可能）のいずれかとして、AWS に対して書面で明らかにしてください。AWS サービスデリバリーとして承認されると、**公開**の AWS 導入事例は AWS のウェブサイトに掲載され、パートナーとお客様の成功が紹介されます。

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

AWS 技術検証

すべての APN パートナーには、AWS サービスデリバリー認定を取得するために AWS 技術検証を受けていただきます。技術検証は、特定の AWS 導入事例に関連した APN パートナーのサービスレベルのスキルを評価するものです。技術検証では、AWS のサービスを開発して AWS のお客様に提供すると同時に、そのサービスの AWS のベストプラクティスに従うという、APN パートナーの能力を確認します。APN パートナーは、サービスデリバリー認定のために提出した AWS 導入事例に対して具体的に何を行ったかを、社内またはサードパーティーのエキスパートに実証します。

技術検証の要件については、以下のサービスデリバリー技術検証チェックリストに詳しく記載しています。それぞれの技術検証は 2 つの要素で構成されています。

1. **ドキュメントレビュー:** APN パートナーは、パートナーの能力と提供された各 AWS 導入事例について詳しく説明する技術文書を提示することが要求されます。社内またはサードパーティーのエキスパートは、この文書を使用して、チェックリストに記載されているサービスデリバリーの要件との整合を確認します。この文書は、公開情報（例：オンラインまたはオフラインのデプロイガイド、インストールマニュアル）および非公開情報（例：アーキテクチャ図、設計文書、およびセキュリティ評価）の両方で構成することが要求されます。公開情報は、ベストプラクティスとの整合および APN で承認されたマーケティング専門用語の使用について評価されます。非公開情報は APN パートナーの判断で匿名化することもできます。
2. **サービスデリバリーおよびサービス固有の技術要件:** 各サービスデリバリー認定は、APN パートナーがお客様の問題に取り組むために AWS のサービスの提供方法を明らかにすることを目的としています。そのため、チェックリストには、APN パートナーが顧客に提供する必要のある特定の手法と能力に焦点を当てた、サービス固有の要件が含まれる場合があります。詳細については、チェックリストを参照してください。

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

AWS サービスデリバリープログラムの前提条件

AWS サービスデリバリーパートナーは、下記の必要事項を対応することにより、異なるレベルの複雑さとスケールのお客様の査定と AWS サービスの生産性を助けたという成功を証明しております。

技術検証レビューのスケジュールを設定する前に、以下の項目に対処する必要があります。項目は AWS サービスデリバリープログラムマネージャーによって検証されます。不備がある場合は、検証レビューのスケジュールを設定する前に対処する必要があります。

1.0 APN プログラムメンバーシップ	Y/N
APN パートナーはスタンダード、アドバンスド、またはプレミアム階層の APN コンサルティングパートナーです (要件を参照)	
2.0 AWS の導入事例	
2.1 AWS のお客様導入事例	APN パートナーに AWS のサービスのお客様へのデリバリーの成功を示す導入事例が 2 つあり、それらのサービスがパイロットまたは概念実証段階ではなく本番環境であること。 注意: 公開扱いのリファレンスは、AWS がマーケティング目的で使用することがあるため、非公開のリファレンスよりも奨励されます。一般の閲覧者が参照可能な導入事例のエビデンスは、導入例、ホワイトペーパー、ブログ投稿などの形式で提供する必要があります。APN パートナーのウェブサイトで見つかるものである必要があります。
	APN パートナーが各リファレンスに記載する項目: <ul style="list-style-type: none">お客様の名称AWS アカウント ID (AWS のサービスの利用形態の確認に使用)問題の記述/定義提案内容ソリューションの一部としての AWS のサービスの使用方法使用したサードパーティーのアプリケーションまたはソリューションプロジェクトの開始日と終了日成果/結果学んだこと
3.1 アーキテクチャ図	提出する導入事例には、アーキテクチャ図を含める必要があります。 <ul style="list-style-type: none">アーキテクチャ図は、ソリューションが、どのように AWS サービスと連携しているかの説明 (具体的には、ソリューションで使用される AWS のツールとサービス) を詳しく示したものである必要があります。また、アーキテクチャとセキュリティに対する AWS のベストプラクティスのエビデンスも含まれている必要があります。
4.1 パートナーのプラクティスのランディングページ	APN パートナーは AWS ブランドのマイクロサイト (AWS のサービスに関連するものまたは、AWS のサービス専用のウェブページ) を有する必要があります。 <ul style="list-style-type: none">エビデンスは、APN パートナーのソリューションやプラクティス、サービス固有のウェブサイトを一覧の閲覧者が参照できる形式で提供する必要があります。APN パートナーのマイクロサイトは APN パートナーのホームページからアクセス可能である必要があります。ホームページ自体はマイクロサイトとして認められません。

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

AWS サービスデリバリープログラムの要件

APN パートナーは、検証プロセスに備えて、本書にまとめられている項目についてよく理解し、客観的エビデンスを準備してください。これには、能力を示すために準備したデモ、プロセス文書、実際のお客様の例などが含まれますが、他にデリバリー能力の高さを証明する資料等があれば合わせてご提出ください。

AWS Database Migration Service 承認基準

AWS サービスデリバリープログラムの手引きとなるのは AWS のベストプラクティス(*)と Well Architected フレームワークです。（*英語版が最新となります。）

AWS Database Migration Service 検証チェックリスト	エビデンスの詳細な説明	Y/N
<p>1.0 導入事例の要件</p> <p>APN パートナーは、AWS Database Migration Service の使用に関する以下の詳細を含めた 2 つのカスタマーリファレンスを提供する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 移行したお客様の環境の概要 データベースのサイズが少なくとも 25 GB <p>AWS DMS に関連したアーキテクチャのベストプラクティスをパートナーが採用またはお客様に伝達したことの証拠。以下のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> AWS DMS の制限の理解 AWS DMS アーキテクチャ全体の理解。レプリケーションインスタンス、レプリケーションエンジンのバージョン、効率的な転送のためにソースおよびターゲットのエンドポイントを設計する方法など Schema Conversion Tool (SCT) の理解と、ネイティブツールと比較した適切なユースケース。 パブリックとプライベートのレプリケーションインスタンスを使用する場合の違いの理解。 <p>データベース移行全般のベストプラクティスをパートナーが遵守またはお客様に伝達したことの証拠。以下のものが含まれますが、これらに限定されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 移行パフォーマンスの改善。 大規模 (TB 以上) データベースの移行。 ターゲットのインスタンスサイズ変更。 本番使用の影響を低減するソースデータベースのロード縮小。 タスクログを使用した移行状況の判別。 手動や、Schema Conversion Tool (SCT) を使用したスキーマ変換 ラージバイナリオブジェクト (LOB) の移行 進行中のレプリケーションの構成 	<p>お客様による実装の説明または文書</p>	

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

	<ul style="list-style-type: none"> Oracle ターゲットのユーザー/スキーマの変更 [ベストプラクティスではない - きわめて個別的なユースケース - 削除推奨]。 移行の計画と実行。本番準備保証、フォールバック計画、ユーザー受け入れテストなど。 <p>セキュリティのベストプラクティスをパートナーが遵守またはお客様に伝達したことの証拠。以下のものが含まれますが、これらに限定されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> AWS DMS を使用するために必要な IAM アクセス許可 AWS CLI と AWS DMS API で使用する IAM ロールの作成 リソース名とタグを使用したファイングレインアクセスコントロール 保管時セキュリティのために、移行中は暗号化キーを使用すること。 転送時セキュリティのために、移行中は SSL などのネットワークセキュリティ対策を使用すること。このサービスの制限を理解することを含む。 	
<p>2.0 AWS のサービスの要件</p>	<p>2.1 ソリューションの特徴:</p> <p>各カスタマーリファレンスで最低限、1 つのデプロイパターンと 1 つのワークロードパターンを扱っていること。</p> <p>デプロイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なるエンジンから Amazon Aurora、Amazon RDS、Amazon Redshift、または Amazon DynamoDB への移行。 オンプレミスデータベースまたは Amazon EC2 から Amazon Aurora、Amazon RDS、Amazon Redshift、または Amazon DynamoDB への移行。 <p>ワークロード</p> <ul style="list-style-type: none"> Change Data Capture (CDC) を使用して、以下のタスクのいずれか 1 つを実行する。 <ul style="list-style-type: none"> オンプレミスの本番データベースと、Amazon RDS または Amazon Aurora の間の異種データベース移行 2 つの類似したデータベースプラットフォーム間での同種データベース移行 (例: Oracle から Oracle) 2 つ以上のデータベース間での継続的なレプリケーション Schema Conversion Tool (SCT) を使用してデータベースの移行を支援する。これには評価と移行計画が含まれる 	
<p>2.2 ソリューションの複雑さ:</p>	<p>提出する各カスタマーリファレンスが、少なくとも 25 GB のサイズのデータベース移行を扱ったものであること。</p> <p>データベースについて、以下の要素を提示してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期サイズ。 年間増加予想。 	

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。

- テーブル数。
- ピーク使用時の予想同時リクエスト数。
- ピーク使用時のデータベース全体に対する読み取り操作の予想割合。
- ピーク使用時のデータベース全体に対する書き込み操作の予想割合。

参考リンク：

<https://aws.amazon.com/dms/faqs/>

<https://docs.aws.amazon.com/dms/latest/userguide/dms-ug.pdf>

AWS はいかなるときも AWS サービスデリバリープログラムを変更する権利を有し、APN パートナーが当プログラムの資格を取得するかどうかに対して独自の決定権を有します。

本文書は情報提供のみを目的として提供され、AWS からのいかなるオファー、契約責任、約束、または保証も生じさせるものではありません。ここに記載されている利点は AWS の独自の裁量に委ねられており、予告なしに変更または終了する場合があります。本書は AWS とそのお客様または APN パートナーとの間の契約の一部ではなく、それを変更するものでもありません。